岐陽續膝栗毛初編

壹上

へ13
3286
19

門へ 13
3286
19
巻

本清

十返舎一九作

木曽道中

膝栗毛

二十五冊

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏

金昆羅参詣續膝栗毛初編序

弟子若年の頃、摂陽浪速に居し時、高麗橋の辺にて、船の座に象戸山水を囲碁し、善通寺弥谷を遊歩し、たりしが、秀墨勝景の地、多き中、今ふ想像さるるふ、摂津膝栗毛、七年八編ふ、尾を止るべくも、世情ふ

予が金昌生信仰のこゝに知るゝ故よ。せめて
千年前の事を編まゝ。投書。予彼地理。
行程のあらましハ知得しられど。土人の通言。
凡為の風俗ハ詳られず。国稗さるれども。再
三の世変を経ぬべきて。竟ハ世二巻と編
出せ。於て書肆又曰続ふ。毒嚇ん
人

さるふ了ぬ。ふいるるがめく。孫栄
毛ものとまとハ作しよりてハ編ものと浪生
一篇とし以書と遺稿栄毛初稿と新ふ
ものしてア彼活言が事録ふ事実せ事
中て編ふ。予曰ハ清の細の後ふ
遭ぬし。時まのまと浪年ふまぐ人。
生結曰ものの始有て終ふ。再中の

両士伊勢参宮ニ出ル。岩淵大隅さいうて。
その敵ニ成ル石なりなりの龍吹蛇尾の発作ハ
しらず視者不快の生ると人ハ思ふ是
戦作の加ぎりを編教と異様出せ新ものハ
作ハ創案ハ標者の古中世稽ぎ世ぎ地
古と曲てものハ集ぎるも又浮矣のきるも
ちれたく浦ぎる投ぎるハいるみぎぎて。毋次
技義ぎ軍の記行と紛して流ハ後ふるみ
標鈴を打くふらるさしど下が蝶才め巻
力きるる伝せを鈴向巻糟鈴ぎ考られず
焼来ハ只出職の為ふのぎものきる紛ハ
見めハんも面目なりて弁て楚

文化
庚午春

東都逸民

十返舎一九誌

讃州金昆羅在鵜足郡
山形似象頭故名象頭
山相傳當山天狗名金
昆羅坊所之霊驗多
所崇亦甚嚴云
月秀画
月秀画

諸国名産雅松

此書ハ旅船長門の三ヶ津ヨリ
ゆく道彩姫ゝ無船のことを記さこと
ゝ金昆羅船の也ハ夜のくふ船ゝ大川筋西横堀
豊後両川口等ハくふ船ゝ此帳と私の二ヶ所
也ゝ金昆羅船ゝ云一切祈願の人ゝ
神酒を奉るゝて此船ハ酒ゝ
法ゝ山ゝ海ゝ船中ゝこれを
拾ふ人ゝ神酒ゝ
故ゝ

船ゝ酒を法ゝて法ゝ
三十五日 海藻 三十日 いづれも食ふべからず
川魚 蒜
船中ゝ
昆布船ゝ人の船ゝ
孫ゝ

奉納

廣前ゝ
渡海の船ゝ九死一生の奇雑
ゝ金神ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山ちよい[illegible]通寺[illegible]又花[illegible]除

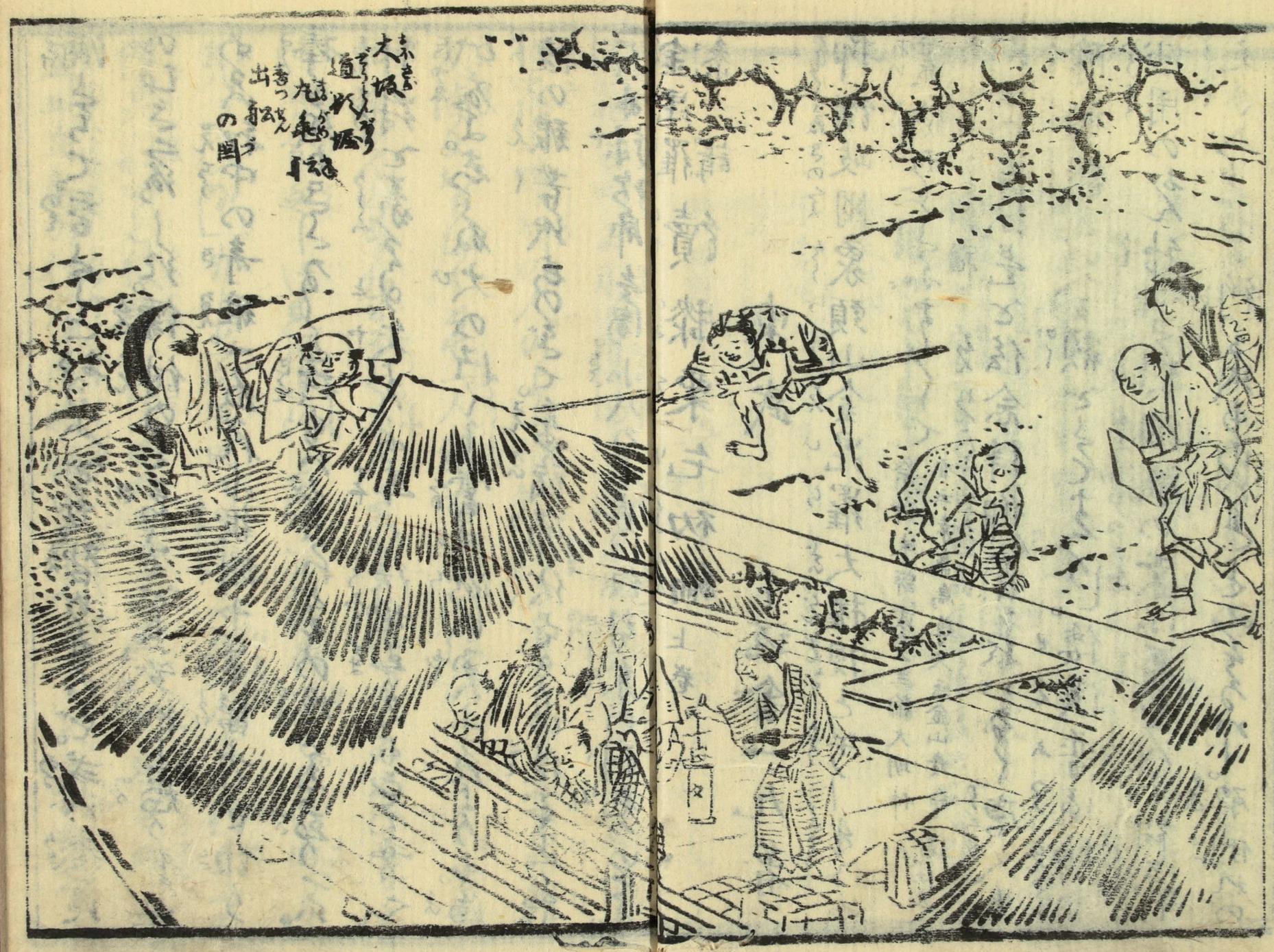
備前牛窓[illegible]播磨[illegible]

二編のとゝ[illegible]

金毘羅詣續膝栗毛初編 上巻

東武 十返舍一九著

抑讃岐國象頭山金毘羅大權現と申すは。祭神表詳或云三輪大明神。亦云素盞烏尊又云金山彦命。霊験あらたかにまします。此月の本尊を信念俳仰せざる者なく。唐人も降神觀といへる額をそなへし。倭漢普通神々妙用のあん祢さへ。諸職の業小長ぜんと。祿糸のえもいはぬとみそなはす。碎倒れの


大坂
道頓堀
龍亀
出船
の図

酒をすすめて。若さをとりのぞかせ
のむさを為しける。儒仏のこと云ふるとも。ふれいと怒るべし。
あるべし私中の寺雑。すべかれ〳〵報謝ふとて。鶏ぶを切り
捧らるとも。とて拵ものどもされどその塩ざるて動うこと。
軒罰を蒙ふる。矢ふるも罪く。後悔ふるもとこと。
代あよ。志ふる大のけく〳〵。雲井路の奥ふるよりも海
陸の張若代志のごて。乗清帰伏ふるめ後ごとの。
ちゑ孫次郎寺門。小八ふるめ。伊勢条の刑をついぞよ。

浪花長町より。遥遠し。既ふ後ほの用ことすふる来ふ
相宿より野州の人のふ名八大雲平 頃り合せふる。金毘羅
糸論ふ。ふ。一人旅なれば。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
同道ふんとふるふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
詠用令ふ。けまで。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
気づひか。ふも不足のふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
讃ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
三出。九龍の私宿。道新堀の大君ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。

とゑつけて野原の人ハアちくとものゝさひすもべいぺえん
ぴゝさまくいぐ私ハさるのゝ〻さてゞやこゝかえんぐゝ
ハアゆるゝしゝりまゝぺその雑巾どのふのひすもへぺゝ
どもハハアぺえんぴゝさまへいぐのぐぶるちんすいくら
ほんぐゝまゝくべんゝ〻ハイ〻いくゝゝ〻ゝ〻ゝ〻三人
同志でゞゞる〻ハイ〻おひとゝまゝく私貿雑巾とゆおハ
ぐゞゞこゝまゝとゝいる〻あんぐちゝぺゝゝゝゝこゝゝんえん
どのゝぺゝくとまげさゝゝあい〻イヤ長八宝堂でゞゝ

まゝとさゝんゝゝるゝゝもさよゝゝゝゝ。ゝテゝゝゝゝゝんゝゝゝゝゝゝゝ
まゝせゝゝゝゝゝゝゝゝ私中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ろとこらへ。こまをふきうけると。あの子どもハ。こそんちれあの。なのふさとめの
めのよそそびいれるとこふめのあどの足とされうら。うてごちよどぬるとびまた張
人をまくらちうれとぶとと　あのんど　サアく　さうさういまのあし
そのふれまのりうつる　さうさう
そそどや。ろつこうく　一ぐとちんいこんらいな。こづくこんこん
ぢうく　上ぐんや　ふまんらぶまれあ。あんぐいちく　ちんなふな
ちんサあいくいこやコレそこのこの　ちんの　ちつとそん
ちやの後をへついてねざぶんせ　ムたコリヤハア　ちつ　ちやりほ
あどこまちとべいト　人をまこいそのりへとうる。　ちんちつの人　エレハイ。ごうちう
はいきこハ　マタ
ねのうこまるのこん。のう　合ぐア。ちうぐいよけ足ちく　せどど

小ヤア。ゆくよせんぐうどん。私ハハイ。ぐづ　ぢのこトア　ぐんま
あくぐよづるこいの　ちんく　ちいういな。ちいいなく出こんとの人
ちうこ　初　ちとぎどや。コレハあるこがこ　ぐ　ぐ退ぐぐぐぐはこ
なくぐはこちげんこんいそれ出るこれまセ　トりあのづなをとそれ
きこれ　代門川落ごちうあはのこと　ぐんく　ぐぐん　あんまアけんびこ
のアあうぐ　夜よろの　ぐうくくト　ちうハこんくこ
きこハ　ぐんく　男ぐこそこるこん夜ハこんぐぐうてそこあつん
だんぐ。モシせんぐうこんひうハそぐね　ぐんぐ　ぐんぐ東風

で用ゐるを手ト小八ヘレとこのぞいて見ると
きうきうめうよかるをふきく るんのろっぷ面ぶくふと。ちょーるのまあくく
くでるかうこぶこぬる雨のかれは明るひりちんぞくも
りねくきめうく 小八 そんぐうを紙つくぜ。今ようぐ星
ぐらけでおこるめをナニふるめのうトいっくのそく 小八 川レ
ふるぐろっぷおいるが顔ハびつきちょうと ぬまこうろと 小八
ナニ夏るりのっ。竟を見ろ！ 小八 ホニナナそれで由おくく
が新よがっさりへるぐ 小八 風上で小便しく

あるから。ふめ一の顔へ。その表ぶ明るのくト 小八 顔ハ表ぶ
えれハ。私中の旅人。あるが。こうくせうぐ小八ハいるこちもうの出
そのせうべんうトコのりうるるれハっこちもちうをとく
小八 ヒ。山へうぐうめ。ふぜ人のはなくく小便ちゃんがつく
ト大ふるこ。ちくとくのおとこハちゃ 小八 いめ一ちょいぐいうぐ
ふぜの中へちゃうこちハいちょーめつる
イトこちこちぐるト山あるハちゃくの人のの合。あそ行るうう 小八 ハ
のきくハちぐ山ハうこちへハうこうん人
ちゃねるのちどんぐトこの人ちりもるる人ハちちあめ 小八 コカヤくん
金んもないこちん。そんなめちけくこいひめこるか小八かっ
ついこるをうちるせハ。小八又ちっ。ちゃいっか。ちんちっうくあー
こっめる。このこちぐこのう今のこちるのこちんがちちて仮ぐこのある

「何ちよさんとやらさいしやそこなやつ。ぶらくさん
ぐる」「ホンニハア」ひるくさん「ぶらくりく」江戸元の面相わ
けぶるぐ子や「イヤ」ちやうやんごろ。小八合羽ぐのくらや。
「ドレ」トまをあ「ハイ」そぐろめくよ。わらとめくと
いつさよ。うるよしねくこうちくとそろしぶめくまし
男ぐト大きよあさかしこ合羽をひつぱ。ぬけあなをらめしそなよんで
きるあのきらきよらどめのろんそれろりよ志ぶいだせうのの中て
きよへのぶきしろのとハれあるけりう(つそのるのり合
ろろくくとらんぶ法ぶらあ)さそそらもぞ
火のやうよあ志ろくしろるいそろひろ

くくくさ人合羽ト焼ぐまくしろ
代一貫よ。私中いよくく大ろくびとろくるふ移ろく
私ハ名。本陣日よいれば。夜ね子の別ぶよろうね。
ちよ風待しそ夜明るのば。茶屋さんと。私改水子もまづら
く。休息いちよ。私中もひそまく。おのぐさまぐ。りくとと
あくく。居眠るもあり。ある人肘まくろ。ある人荷物包ぶうの
ものふ。改めさ出ふ打ろくく。松く寅の刻みりやめらん
と。ものの代。私改ぶ子ぐも。俄よ騒立て。帆柱あくくく。

帆綱ひきあげるゞて。今や沖より発生んとするやうなる。
私中うるおく見をさす。あるゞて顔さす生し。あ
ばらひて。象潟山のかゝ秋あ[illegible]あげむ。秋ゝ北八田住よ
遥彩して

たゝつゞうつ波の音ゆうあく

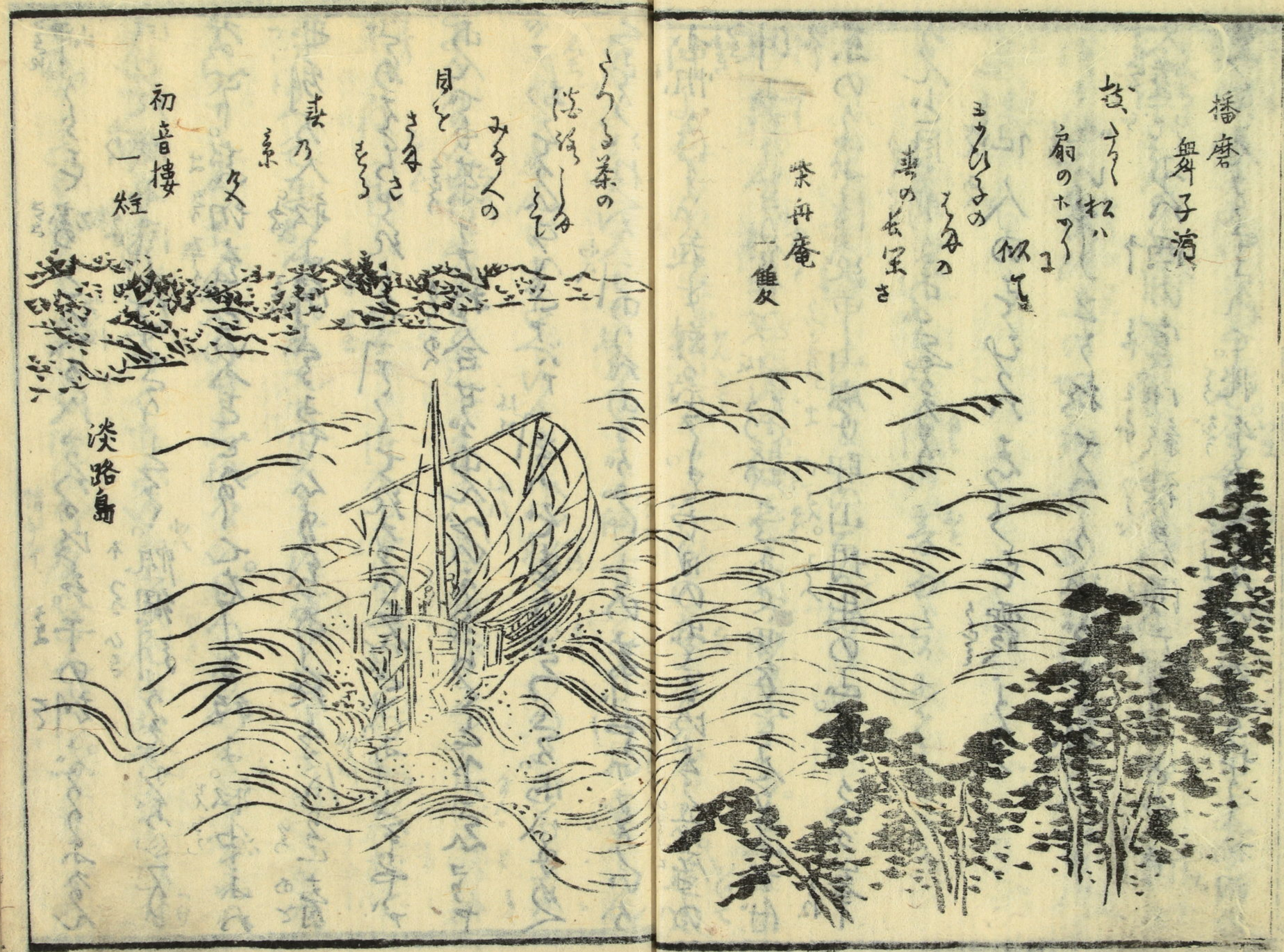
たゝ[illegible]ゆしこのちんぴらの私
奥ゝ。私出をとゞき。彼是うちゆるうちたゝ[illegible]
沖ゝたゝう出。私ゝ[illegible]の奏いをすく。追風

ふ帆ゝげく矢を射るゞくゝ。ゝ日の出ゝ[illegible]ゝ無度の
沖ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

播磨
舞子濱

[illegible]松ハ
扇のかなめ
[illegible]似て
[illegible]の
[illegible]の
[illegible]

紫舟庵
一雄



[illegible]の
[illegible]
みる人の
目を
[illegible]
[illegible]
[illegible]乃
[illegible]
[illegible]

初音樓
一炷

淡路島

岬ばらと磯といくるぜ中ばるはるる。千の刻でだうふるん。
けとぬ俄ぬ風ふうとうしとく。帆綱引うえんばらう
るをて。まい切れといのをるてんてる結は。年中ふい
世別の人私ぬ酔ふるあや。ふりちあ紙ぞいえ青
ぎめえちゃれしてアいく てれるいんぎア。おいとやハア
あんでも茶サア拾合ぢるめんべいうぷちくとやさんコリヤ
ハアあそぐんらんぎアハア えでもるさうさう。小八ぬめく
えうはいくう アありんめるがあげどの茶ぎやアういう

アんぎとといのモこあぐぎアぬぎとうハ拾るさうん
うアーちんぜぬうとべいうコリヤア。私ぬ酔あうさぎるまか
ちうるん茶ぐぎぷうくどぎるうアちるねくとうてぬとうく
茶ぎねアア。けぢるナアはんえぐくべいとうて。大板で
ナア。ううてきあうぎ。ちんらうえうぎれぎアむしアコリヤア。
うらうア。えうちぬべいも赤れるいぷるるいーぎんぎぬん
さるまぎこのふういとぷぎうてやさいいもえんぎかぬう沢のひ拾
るのアレとうるくアいくむげちるひらんぎア。ぢるナーうう

ぐ。陽サアふとうめらうてゆきい〜ヲイくモン私ゴこん傷
ぐひとつりらひてへの〜ぼんちういんさ。おまやとぐ〜ぐ
ぬうめぜよりうこ子ヤ。おまいいちの命よく家ぐ学こ
私ぐこいせうのいチヤ〜ホンニコリヤどうてれよ私ぐ
ぶう〜ろうい見じゃ。ぜんぞうさん。コリヤぞぶじゃいろ〜ぐう
ゆまとうまれ。金昆羅さんノ。信心さんせ。しよ和佐
ぐ。ぐうう帆〜ゥこげんふい〜。ヤイコリヤ帆張ノウさる
ぐう。サア〜新ぶ。コリヤ〜ぐ

ぐうつのうぐうう風いまこのあへくしい
どうぐ大ぐうぐうう日の中へうう小山
まうぐてうまうの人せをぐ〜ぐ
のうるさうぐうあげ〜ぐのくいしう
あへいもぐめぐうちけ〜コリヤめよ小八。ぐうかあく。ぐうぐ
いうぐようぐうぐうう〜

まうぐうハあうぐうん〜ぐ〜というぐう南ぐうくうん
ぐうまく。ぐうぐうぐおうぐうけるぐうれ〜ッレくうぐうう
好拍子酒を一ぐ〜ぐまうぐ〜ぐいあくぐうけるぐうぐう
下ぐうすせ。ぐうん〜ぐ〜ッ〜ぐ〜ぐうらうコリヤ
ゆハあうぐ〜ぐうまぐ。せつあいぐれへいぐぐ

べいぞ。ヤレ。ヤレ。あとうらごでられ。ヤレ。あとかういうて
たまるものぞ。ぞいとさいぞ。ヤレ。ヤレ。ヤレ。
うるめ。ハ。ヤレ。ヤレ。ひとつとしとるつくかのう。あれがかこを
よ。俗世。ヤレ。ヤレ。ヤレ

ハねくぞんなうのしたへ孔くワアりくいつ　ちくとがはく。
こまでのあの命どろう。ワアイくト　なきちぐまむちろうは
祢どのまとむさまこふをあちけの　ちろうなときろは
川名をうつてくまつまよりわるが　ちろうなときろは
ろのうて鞍ろけど。家ろのんどりく。侍ぐのえるん。
室の洋　より一里半もあまくあるく。山あうちぐて。
怪巖奇石どもおわく。風系殊よえ亦あれどかく。
羅漢よ。むのくく打ちしりしが。敬て平山のうえよ。
蛇鏡豊のえんるを。あまこちを宮の淺ありと。船中

おのく蘇生する心地して。ぐのよ笑うをとびきあの。
船頭子もいまこちて。息つぎあくど。淺口まで
入りうろう。大坂より　京まで五十里　夜あくるくあるくあるくあ
て。氣沢山のぼこをあげまこそまつる。夫平後ふへられた
私ぐども。そちちんをうり。そそうかこつけるうち
ふるいい。野列のみを平ぐふくあるをあちうう。
院
コウぐあど私ぐつのう。サアちつとあきうの出くト　四ちう
ど　ちうちうのあーちうぐあどよくく
ゆひへくくうて　いろのまうわてとさきをうていうまどうき

ヤアコリヤちんざそのなナニえんごとでゴドレ〜わんよ
ろのまゆみやてとなりれさ。大へんなとごコリヤごとさ
りんごろうトろろとさろげがのり合とろくきもをへへーいまさよ
ちんどくどもおさとそそ。コリヤ一まげ。おろうんちゆを
どの。ろとうよさだまるんが。
しさうんの合ハテさごめて。おゆつなろさじやあろのよ。
りんまのさろぞそ。れもちとるんざいとしいろちや。
とうまいよひとろ取よ。家合ちも他生の縁じやとな
ろとうしんやうんせコリあとものよどもあやアぼうさん

やぶつ子もあんべいよ。ろ代りりんでおハぶとも
ろうなくろつさめどいとそとこんしい合ろとろる
しそもおけんろいか。おまのがぶふろだ。ろのいどろろ
ろそやうんせナニろろちろがぶるるめろイヤ子や。
ちどの元がけんのんて来てやるのろナニおいろア。
ちんの道つまでこの人がとこの馬の骨ろ。牛の骨ろ。
ちろもし後へめのをサイノ。ろぞきろのあごちや
ちうんが。おまいがさ三人連でやこいろんしさやろ

播磨國室風景
帆はし
喜多川
哥麿

榮邑堂
邑二
村

るの山伸ぞくるとえれおいそちまるんちあや。私中をぐ
のるんきぢや。ハテもうるいるんるいの。往来のに
形ぐあるぢやあろ。懐中のものあるしあて人四人セト横
うのひきまがるるしきつきいるるどあるしめるんるぢ東
のまぐらしきものハこえもしぐこがニツだるれいこあるるるるれハこあるるるるるるる
の合
コリヤ手形ぐるんちもうるいきぐか私さんあるやぢん
るとるのるぞいな「ぞとるとるておいらがきるものう。
コリヤアるの私るのせるくまるさうらいぜんぢうどの
うけ〻まるりぐぞとるの傍まるぐいて門十

あそぶとひえんじやるんくるが豊いのるくくの合
コリヤおまのぐこがもりじやるいる死るれさ人が
ひとり旅でかり合のるん人ぐるるいやとる私改
どのが。そりおきせるやるるんるれど原逆ゴ思。
るんじやあろと。問屋の帳面。おまいがさ三人
ぐまとつけさやつさじやるんらいか。それぐるる。
おいらぢそりいがるアるるはくたるるんるトやか。
るるそるるもどるのるまのさいるるひひけひ〻
るるやとぐるるらくさがんくくのおるるしきん人ぐさとるるるるる

[illegible]コリヤ〳〵[illegible]
て来もりるのじゃ。[illegible]
どもいろ〳〵。いろ[illegible]
さんぐつ〳〵や。コリヤ 私 [illegible]
かるゝ。せて。[illegible]
[illegible]
[illegible]

えさうあんとるの。おしたみうどうとふうどう。車の
るりの輪ふうどう。さるさひろくてうさうちんきんん
ぐへ。ちうんがうつん。ゐくうくうあんとさくづる考へへ
ミッチョク　るんぐうそうぐうの雨ぐ。イヤ女居ぐ
そふる。ちういあつあたく　ホンニ。さぐどもうひうつく
へ。チト　ひやーてやうう　ト　ちうまちうれてそうぐとあうくう
口のうち思ひ意のくことあけてお女ぐ母意よりひてるのしびのるさぐ
しふうるんどいうくそうよりくうくうりげいまらうーうぐ三味せんぐをもを
てもうのく　ひうふまうあうとえくて大の男大じぶのひろそぐきとるが
ひぐいをえうよまうきぶ女よ目をひうれとうれまううのげいまをえうけ

とやトヨ　国滝谷の約　右ぐ目ひ。とやうひざうるつうども。
うんとるぐ。ちうんをよるのうあえぐようエーくやちんだいが
重吉　ローロー
おうんせ二のれさ夜うるくてうつうてぐ。ぐうるくどやるう。
腰　シロウルイナ
るうぐいとうちやトあげてのくふうりいあしくく長くいりうの樫ハ
ヲロロシーイ　とのぞきえればうちくりぐうるうあるこのへハ
大坂あと　コレイナアぐようるうそうんくイヤをんるあぐやなの。
ええて
そうるせくナンノイナ　ねびのいるぐ。ぐぐ小八。えりとそうう
あうんでいとふうぐえんぐエ氏いう。私よ仏とおいて来
ちうぐう　イヤいとぐあるぐ。あいうと私よあうさぐうとくく。

ゑ。そのゝ、よるいとくじんえど。ゐのよるゝのゝ
ゐ。男ぐ。ぐ。ぐ。

ぢやるな。小八お寺が私へあてさまるものか。コリヤ大
変なことをいふ。小女いんきよ戻つてどやが。おまいさんがさい。
おてゝさんよ。何ぞ用がありまさるか。小八用といふハ
ぞふぞ。わとこけをそもゝつてゝりひてゝの。小女まつん
やの。そのいるおてらいちのうへよ。法華寺といふが
あるこいな。小八ナニダ。わゝこいちのお京けまんぢうが
あるまアアサア。ほんとうに。小女あさけこいな花どや
こいなト。どちらもあるをちきちきとそれまつ叶町を
そろくとつまさきあがりまのぼると。あるあど寺きこ二さん

んあるよ。さそれくとさのそくいとのりぢいとらのさきあれば。小八ちとおど
入くれば。なあり人どいとやかとぞざうのさきあれば。
ちまちこつらゝア。旅のものでござりかたぶ。おせうさま
へお行がひがあつて。参りかしさい。小女んどもアいまい
元迎でどや。あとちりどんせ。ぜんしうあそのおさらこいと
とあとちりのさらてちりとかいと
小八イヤ。ぢまでハまれやせぬ。アハちりかなこちら。
死死ゝ中ゝこちら。それでお髪ハヤかとと。小ア
るんどやゝ。葬礼ゝ。コリヤめでたいか。さんこいちのぢが。
ゝ入院いさされと。小入院さくく葬れがあるとん。

ろうのいなめでしたいとハるのハ。今までハ叶寿の檀那ハ。
のこらず逝者で。ゑれもあゝ長命ア、ちよとゑぐるのハ不
仕合なゑちやとありひあろうとぶ。ゑれゑハ檀方ゑな
夭死して。孝盛冒の陽れ。おせうもさぞよろこびき
やせう。孝ハてハ酒などあげまようゐなゝゑれハ
ありがたゑござりやとぶ。昔ハいそゑどやとちらとぶ
ゑうゑうも。孝ハて葬れまの生れ糸いそやせう
イトワリヤ。早速なゑちやが。推どのとや

ハ。ゑちうふゑうでござりやとゑハゑうハゑ
じゆいなゝやとちらとアるゑりのでござりやとぶ。
今昆羅糸筋よまいりやさ。私の中でつまゑ一人。
てとゑやゝゑちゝ。ゑれでハ重おしゑのゑやのでござり
やとゝハテゑりやゑけるゑの葬礼どやな。ゑちしゑ
ゑうハまゝおやゑ。孫の礼ゑ法華の子形ゑあゑハ
なゝイエ子形ハござりやせぬゝ子形ゑるハてハごけん
ゑちゑるゝいりやとゑちゑあゑ。りゑゑとゑとゑ

ゆやを伝あんこうちや。ゑやーこいなえんじゃ。ぜうろく
うれーろさりのと伝りりヤアいいおちうらあとーとどざう
ゆーとこ。おきのどくな伝へさ絶ろめあうろう。おちりり遺
といふもめづらしい。サア伝次さんあくぶねくぜうさうと
きのとんとうへトとあ寺でこちりでうをくと人まりくある。ねへまし
ろんどうもとこまねもあれとこでぶいとところ六十あまりのやせどれき
る伝一人いろうさまぶりあるとところへぜあうかんぶつとこりで
伝へめんろのとくぶおせうこまくちとおねがひがどざりまと。
しびのりのでどざりゆーとが。一人私中で病死いろ

ゆーこ。そんでありこで。おとむらひるのこうてこどざうりませ
伝へソクトに雑煮であろこどやあろ。夏伝とるいち遍
寺の伝職でどざる。乗知ーまーこ。ろーなるら。葬礼
もいろく亜隆次者でどざる。経よむ伝も変のよ
のとこのめべ。それどけよ絶物も余芸よ出すこと。又
いんどうこと。ふも。イヤあ〻音がよいの。或へ歌ろう
三みろ十のどが変色でしのしとあとべ。芸へ格別
る亜でどざるが。伝のもこうるま好へどざるねうる

それもありろうござりやせうが。そく殘のいとね
ようよが經もあるようけあんしろうなさろうとやさり
ます。ハテ亡者ハうまんとぷうむきいと。そんなさそへ
うまひませね。こてろくまし。それなんべ又そのやうよ
さろうひようと。めそろとのく入ねやそよいそなんべ。
二三日まち。なされ。そちの檀方よ死のうとなる病人
がなるさろん。それと一ぬよ別合でさしやるといくう
仏壇よあがりまして。イエく。そんハらの仏がりちまて

ゆく。十二月ろんまろるいこいの。その亡者ちよと
脊冥ありて。うを淫あそおいてう。二三日ハ多きい
あろまい。アりヤぞんとゆ。ゆんどんの陸系
ふ形ぶござるういる。イヤそれがねくうまこつて
やと。どんぞをを。おのとをなろうていうござるく。
ちるのいようさんせ。私ハのまいちろてもく。宮屋があるどやろ。
その間屋をろのんで。芝くんて。宮屋くうこちく。書
附を本まとそじやと。いつきよそえむらのくまん

じゆうさいなハイいろさまさまをうよいてーやせう。ノウ
ほかえんいづきあのようろーくおとのをやを。
さまうるいろてさんじやせうトかうくのさまさまいたろあらつきたてと
せうとそこのてらのいりぐちのそとそこ。西ノ一さのこそくけてあるをふハ
ほかをようさやきてあ戸板とそこうとりくるげてそうくかへくりやと
くろうてせんどうとこのをるるよかぜんどうもようホろくんやをきあるる
ゆいこうをどうこのちくうけ合。ホ自をかくそやうくきもあるとしこう
りんかやくてうの戸板よりくじやをのもとをぐくのねのことくそれてうろう。
ろようさん。不おのるのそこばてらくおさるへりあそせんどうさきこ
てうちんりちうろう。ほかハハあとさきよう。この戸板をつりく
そのてうよいうう。ホどうのハイおせうさまプどと蓐
さのこうきはくと

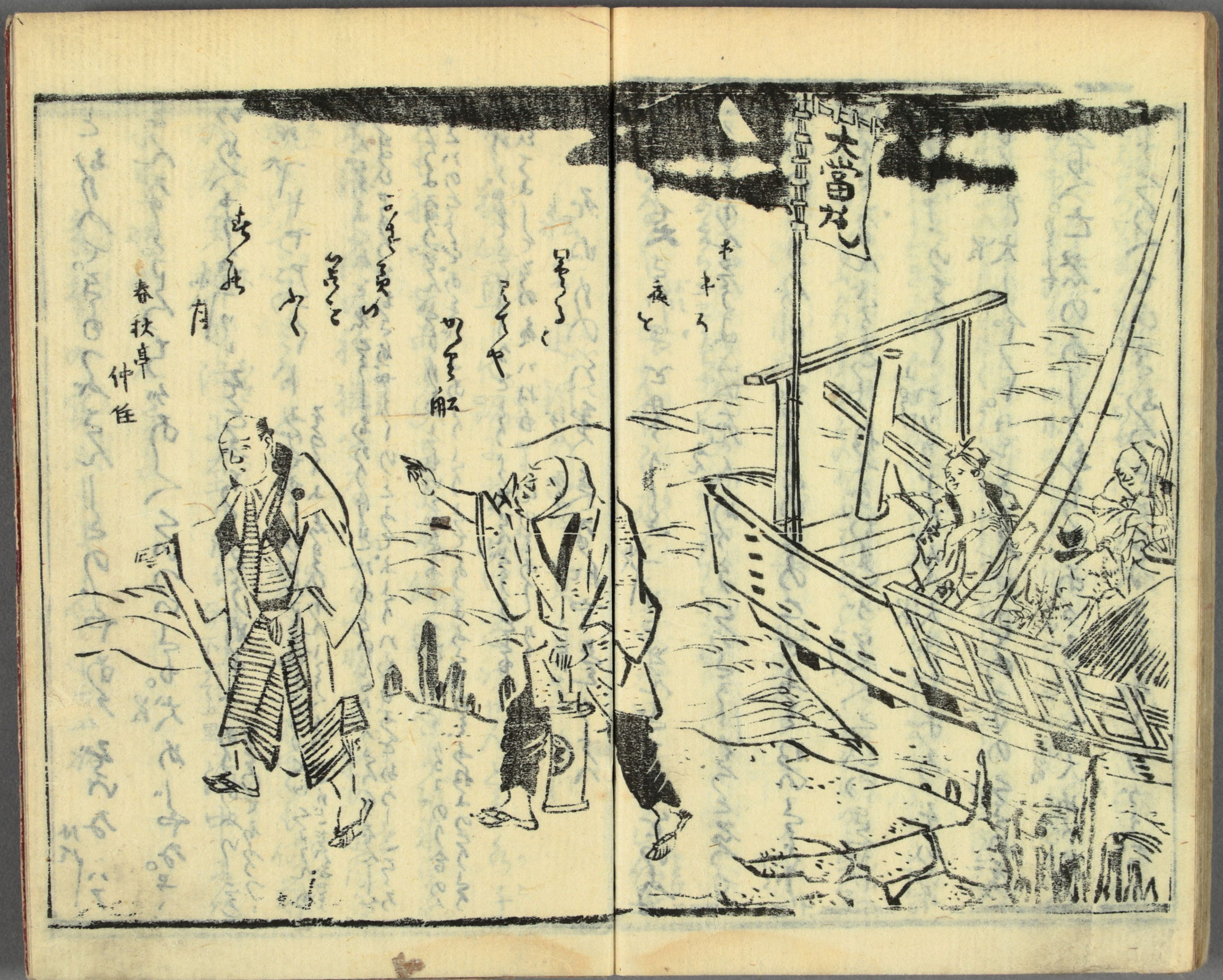
礼ハ
ニ上まとハりのハあるさのでござりまし
ことハ狭かるそもくいじやな。まくく周縁とハりの
ハふりぐるりのじやけ佛も。そちの者へきてじや
こと。合点とこんへてんまのさき本堂の両戸が
ぐくくくくとハあるとぐるとぐろまくくと板の
間を人のあるむやうるおとくくハりくさえへこをう
れこをえるこのなハ。おせうさんぞんざとをハ
ろちうあのさぐあおいとまいくーやせう。のと

らろしくおしえのこと中せ「コレくマア。沐浴しそ。
あのちやへつまてうろんせ「十二サ仏の遺言で
ござりやそうろう。ゆうろんいせどもよんござりやそ「
そでるいろいの。濁世の俵を洗ひあとをへ。佛一の
うあじや。その釜よ湯ゆうろいてあるさろの。ちよと
あとへうんていそ。ゆうろんしそござれ「とくりの
うんじや。そのうんせ中うんせ。サアくその綱張ノウ
ほんぬのでゆうんせ。ゴラーが湯ノウうんでありそい

手ヤトいの門ふ次ト少人の。ゆうろとあるのうろうろうゆうきゆうそうろうはんとあるうのれのうんまひ
ゆけ。アるうろうんしてやとけをもごろ。なしとけのうぶ
ごうんでのまやゆうどりちるうとうそどもくれるごるのうく
ちをごうんばそうくとふく風ゆうあるしうのあるとゆ
ゆのうをごうんまうしがうくとふひぶし「ヲ、イ湯を
そうくうんはく「じやらちのあるわねくおまがうんでうよ
隙コリヤくおまだろうろうよ「ゆるうてゃいあぶ「うんぶ
うそうそのうろいそれよさつれおまうめが年出く
亡者ぶ来ていやアぶうとおりひぶーうろうよ
うそうろねドレゆうとうそうそうよトいちりくうこうけ出

つぐのそうけいぐさうんとんありひさうしが一ぢんてうかあとこの
どんせうりるぐまんしてあるいれあとみそをあげんとこさをぎ
とこへかるがんのうちあんねんぶつをとるぐいとくみるひるぐら
まんぢうしそのるとかの赤のえぐるるうけうるてうちん風がよのそきうて
去年ひまろうやとるれがほかりあり。あるぐ
しそうさハとよびうあくうちどうやうのやとけがひとりでようすぐす
るんがそうとぢうようとりのがぢうくくあしてるるはいとくくのれ
ひかうし。このまんぢん牛よのこるるのぐあるぬきこうあしてるのやく
うんどもとかふえ夢をそのあくうんぢうとうひつくあぢはるるひつうう
しそ一ヲイく小ハヤアイく。ちあくあそこ（ま）ヤアイくト
こあくし亥小ハとちんどうがるそけはるるとられて一コリトぢうこ
ぎぞうるあとうらおちうちまうちんをうるるるるぢうるよ
ぢのうるく一ぢ。えやくあるこうてがいうよへうけれぐ

いきうつくと大さんぎを手ようしこ一ぢ十二ぐんぢうのをいふ
ぢイトりんうようよ。ぢの死人めぐあうぐのうとうとうとうて
えびのくうんぐうよ。ッイちのうちのこをうをぬいうぶ下
ぢうトうるんぢイきうとねくぐ。おまが笑へぺひうまう
ぐうこ。ア！いうくソリヤ大、ぐうぐ大ドヤあうるそのう
ドレくア犬ぢやく。コレうえんせ。その子のうるれ屋
うそあく亡者のあーぐおうちそあるそれを犬めぐこう
ぢうくてひをあうこと。ぐるうんわとけぐうぢく


大當たり
春秋亭
仲任

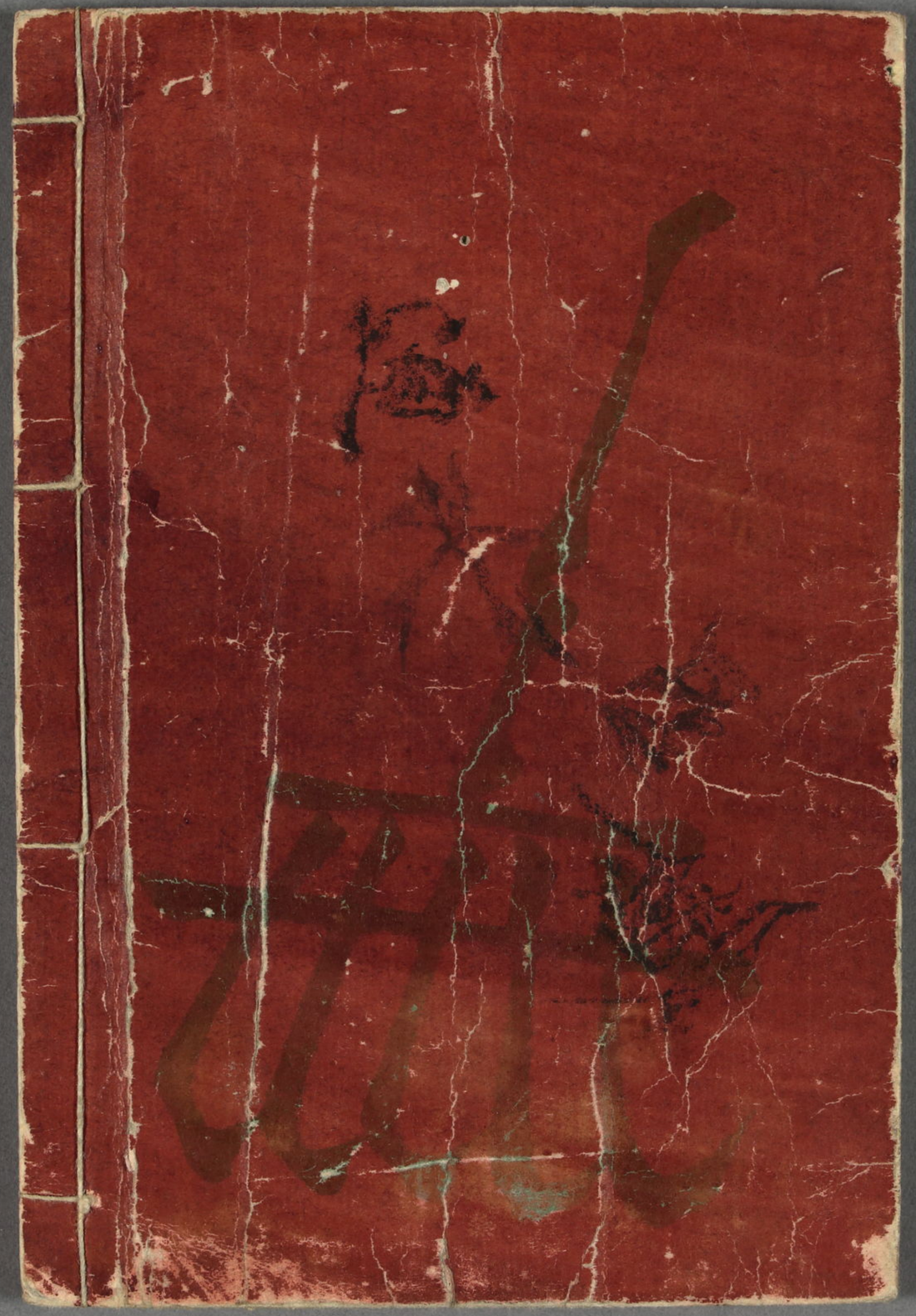
とありへてさもつぶさんしこのやあろぞいな。ハア
こんるるぷろちがあるくくいつついこも。犬めじやな。ヤ、
いめくまつへ「リ」そそふちくせうめがトありのへいこ
れば「ヤヤアこいくトあげてやくくふあるひとあるくいるこんも
そそくくふあるひあんぶくくくろうこがけどこだんまぶ
ねんどろよとれを見そそーあるりけりきばめとんとうりうこぶけぞんとを
あるまひどりろをあさめやくくのとうそぶこうはあるをあうーこうろ
ありちよるうどんどうりろともいそうこうるこのり合の
びとはのそうどあるびよあるくこうとそぶるふうりのこあれよのろうこ
ほけうふかそこうりこうをこうこうをちせんどうこうこる
あふこうまーこうこの夜はねるまるどのこあるり
死ぬりのふ変えるれや芸うこん

私よ追風の富貴自生なれ
ばく狂ひ直して。既よ夜明けこへ。せんどうあるこ子
ども私中をあるひきこうあるめ。後繪者をよび来うて。
不浄よけの祈祷をなす。やがて翌日。我の進風よ
帆クけて。このこるのとぐちを繋りぐ。たもも伐翁
の大多婦の沖よ至りる 桜石室この沖まで五里 海中あへ。
小豆洗のうんこうるよ
衆魚の実入もうーや小豆洗

ゑちごちうじよねるぐらそえる
それより牛窓前といへあうをゆくなどう。
八島の矢うが嶽。南のうえよ。筑く聳え。
破の小冨士よりるぐく。下津井の浦ええ
ようう。海中あハ阪山石島などさぐてこの
あう。小島あるく。京色佳粟いえんうう。
その日申の刻うとあるハさねその元丸
亀の川口みぞうきうう室山ふ山で
十三里えちう

稲宮へゆく津島あるねども
のりあゝせそれ丸亀の舟
おゝ汐干よあひて二丁ばう沖のうふ私さ
ゑて。渡汐をまつ。山渓い苅あさあく。そもする
雑説ありという。等るぐせやく川中よのう
入。ふうう家きうハい。大物屋といへる猿籠屋
よやどる。ゑハ私の宅のう。案内よまうせく
こうう。うう先くあん坊のおりひをほ

本清

ゝりる。

債膝栗毛初編上巻終